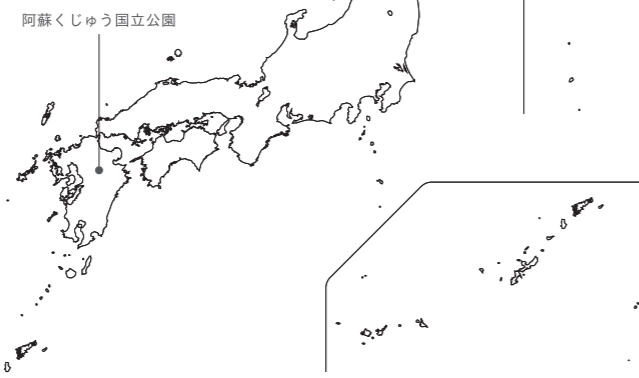


阿蘇くじゅう 国立公園

National
Parks
of Japan



国立公園とは



国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するものです。北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで34の国立公園が指定されており、年間3億人以上が利用しています。国立公園内は、自然の絶景だけではなく、野生の動植物、歴史文化などの魅力の宝庫です。日本の国立公園は、森林、農地、集落など多様な環境が含まれていることが特長です。ほとんど手つかずの自然が残されているところがある一方で、自然と人の暮らしが織りなす地域の歴史や文化にふれることができます。是非、実際に国立公園を訪れ、四季折々に変化する日本の美しい自然を満喫してください。

特長



草原のかほり、火山の呼吸。
風が遊ぶ感動の大地

阿蘇くじゅう国立公園は、昭和9（1934）年に誕生しました。本公園の大きな特長は、大カルデラにそびえる阿蘇山やその北に連なるくじゅう連山などの火山群、そしてその周囲に広がる雄大でなだらかな草原です。公園南部の阿蘇山の周辺では、噴煙をあげる中岳の火口や美しい円錐形をした米塚、広大な草千里ヶ浜、それらを取りまく火口原と外輪山など、雄大で素晴らしい風景を連続して見ることができます。また、公園中部のくじゅう連山の周辺では、あちらこちらで硫気現象がみられ火山特有の風景地が点在するほか、久住高原や飯田高原などの広大な草原、さらにはタデ原湿原や坊ガツル湿原など学術的にも貴重な湿地など、見どころが豊富な地域です。公園北部には、別府や湯布院などの温泉の源でもある鶴見岳や由布岳が美しい山容を誇っており、山麓からは別府湾から由布院盆地、くじゅう連山までを一望することができます。

【指定年月日】昭和9年12月4日 【関係都府県】熊本県、大分県 【面積】72,678ha

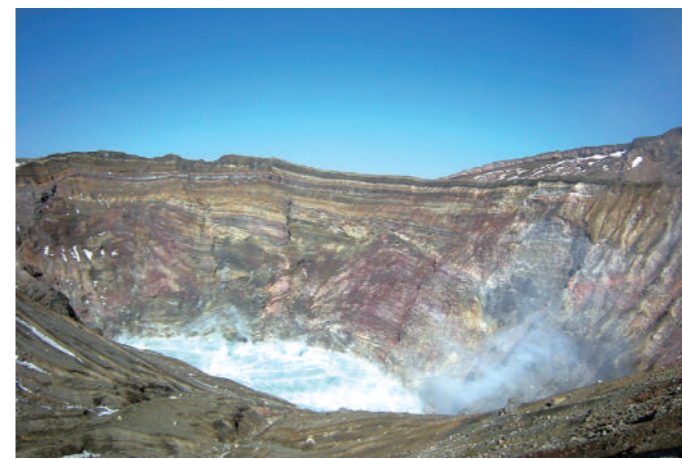


写真：阿蘇高岳よりくじゅう連山を望む

地形
地質
景観



阿蘇山は、南北約25km、東西約18kmに及ぶ世界最大級のカルデラを有し、最高峰の高岳（1,592m）をはじめ阿蘇五岳からなる中央火口丘や、その周囲の火口原と外輪山によって構成されています。火口付近は荒々しい景観ですが、火口縁から遠ざかるにつれて多くの植物が生育する草原となり、穏やかな景観を呈しています。一方、くじゅう連山は、最高峰の中岳（1,791m）をはじめとした峰々からなるトロイデ（鐘状）型火山地形として変化のある景観となっています。これらの南北には、火山灰などによって形成された火山性高原が広がり、雄大な草原景観を呈しています。また、窪地が多く、豊富な湧水や雨水によって多数の湿原が発達しています。このような火山と草原のコントラストが本公園を訪れる人々にとって大きな魅力の一つとなっています。



中岳中央火口

取り組み



— 阿蘇草原再生 —

阿蘇の草原は、永年にわたり放牧、野焼き、採草など人々が手を加えることで維持されてきましたが、後継者不足や牛を飼う人の減少で野焼きなどが困難になり、ヤブや林が増え草原が減っています。そこで、現在では「阿蘇草原再生協議会」が中心となり、地域の人々や団体などが協力して阿蘇の草原再生事業を進めています。

— くじゅうミヤマキリシマ保全活動 —

くじゅう連山のミヤマキリシマの大群落はくじゅうを象徴する風景でしたが、近年、ノリウツギなどの低木が繁茂し、被圧されたミヤマキリシマ群落の衰退が顕著になっています。そのため、管理計画を改定し、関係団体の連携の下、特別保護地区を含めた各地点で保全のための除伐活動を実施しています。



くじゅう連山と硫気現象



阿蘇の草原



タデ原湿原



協力して進められている採草作業

ミヤマキリシマ保全のため被圧木の除伐を行う

連絡先一覧

九州地方環境事務所
〒860-0047 熊本県熊本市西区春日2丁目10番1号
熊本地方合同庁舎B棟4F
TEL | 096-322-2400 | FAX | 096-322-2445
URL | <http://kyushu.env.go.jp/>

阿蘇くじゅう国立公園管理事務所
〒869-2225 熊本県阿蘇市黒川1180
TEL | 0967-34-0254 | FAX | 0967-34-2082

くじゅう管理官事務所
〒879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野260-2
TEL | 0973-79-2631 | FAX | 0973-79-2635

阿蘇くじゅう国立公園サイト
<http://www.env.go.jp/park/aso/index.html>



阿蘇草原保全活動センター
<http://aso-soujencenter.jp>

阿蘇火山西火口規制情報
<http://www.aso.ne.jp/~volcano/>



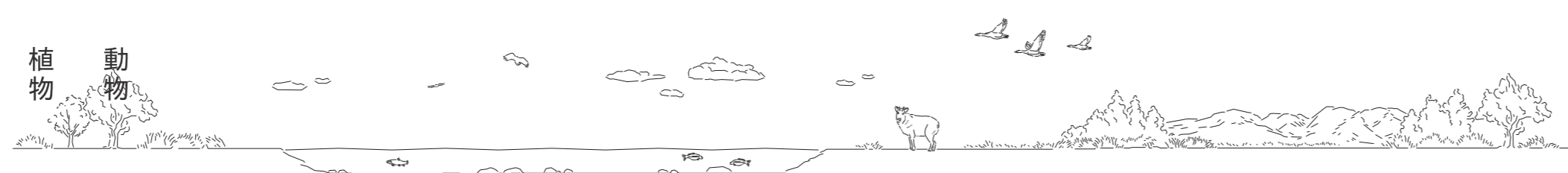
【表紙写真提供：阿蘇火山博物館】

発行者：環境省
発行年：2018年



※ 見どころ案内マップは、指定区域の概要を示すために作成したものであり、誤差があることを考慮した上でご利用ください。

植物
動物



火山の周辺では、火山性ガスの影響により、ミヤマキリシマやコケモモなどの特徴的な植物が群落を形成しており、独特の景観を呈しています。また、山麓に広がる草原地帯は、永年にわたり放牧、野焼き、採草などの行為によって樹林化が抑えられてきました。優占種はススキですが、草原のまま維持されているからこそ、絶滅が心配されているヒゴタイ、キスミレ、エヒメアマメなどの希少種が多く残されており、たいへん重要な生育地となっています。そのほか、タデ原などの湿原には、サワギキョウやヌマガヤなどが群生する学術的に貴重な植生が発達しています。



ミヤマキリシマ群落(高岳)



ヒゴタイ

キスミレ

特徴的な動物としてはチョウ類があげられ、草原の植物を食草とするオオルリシジミ（食草：クララ）やゴマシジミ（食草：ワレモコウ）などの希少種が息しています。また、樹林にはキュウシュウエゾゼミ、草原にはダイコクコガネといった昆虫類が息しています。鳥類も草原性の種が多く、ホオジロ、ホオアカ、セッカ、コジュリン、コヨシキリなどのほか、ノスリやツミなどの猛禽類も見られます。そのほか、爬虫類ではタカチホヘビやヤマカガシ、両生類ではオオサンショウウオやブチサンショウウオ、カジカガエルなどが息しています。



オオルリシジミ



キュウシュウエゾゼミ

本公園の生態系は、火山性ガスが噴気する硫気荒原のほか、山麓部に広がる樹林、野焼きや採草により維持されている草原の大きく3つに区分されます。硫気荒原は過酷な環境に適応した動植物による特異な生物相が成立し、樹林は二次林や自然林など様々なタイプの森が多様な動植物を育てています。草原は、人の利用や管理によって植生が異なり、野焼き・採草などを続けることでススキなどが優占する長草型の植生や、放牧の牛馬による採食でンバなどが優占する短草型の植生などが見られ、それぞれ特徴的な動植物を育む生態系を有しています。



採草利用している草原(長草型)



放牧利用している草原(短草型)

文化
歴史



— 野焼き —

本公園の草原では、春になると一斉に野焼きが行われます。これは、茅野や放牧地などとして活用するために、草原が樹林へと移り変わらないように、千年以上前から続いている営みです。

— 温泉 —

本公園内には火山の恵みである温泉地が多く、古くから地域の人々や観光客に親しまれています。



野焼き(春)



主な温泉地の一つ(箱湯温泉「日本一の打たせ湯」) 阿蘇温泉(大湯)

国立公園の利用上のマナー

多くの方に楽しく利用していただくために、国立公園内では自然を大切にすることを心がけ、次のことを守ってください。

- ゴミを捨ててください
- 花や植物を採らないでください
- 野生動物に餌を与えないでください
- 動物を獲らないでください
- 歩行中禁煙
- たき火は指定の場所で行いましょう

牧野内へは、牛馬の病気の原因となるため、立ち入らないでください。

阿蘇火山規制情報
阿蘇火山防災協議会では、阿蘇火山の火山ガスの発生により、人体に影響がある場合には、臨時に立ち入り規制を実施していますので常に新しい情報を収集してお出かけ下さい。



ロープウェイがあり、山頂からは眼下に別府湾が広がります。春はミヤマキリシマ、夏は緑の森、秋は紅葉、冬は霧氷と、四季を通じて楽しむことができます。



由布院の背後にそびえ、秀麗な山容から豊後富士と呼ばれています。山麓部は野焼きによる草原景観が広がり、秋には中腹の紅葉が見どころです。



長者原ビジターセンターの東側に広がる湿原で、遊歩道が整備されており、多くの希少な植物を観察することができます。ラムサール条約の登録湿地です。



登山客に人気の山で、山頂付近にはミヤマキリシマの群落が広がっています。ラムサール条約登録湿地である坊ガツル湿原を一望できます。



自然噴気地帯で、熱湯や水蒸気、泥土が噴出する特異な景観を呈しています。散策路が整備されており、火山のエネルギーを間近に感じながら景色を楽しむことができます。



黒岳は山頂まで自然林に覆われており、ブナやオシロイなどが多く見られます。登山口に位置する湧池、白水鉱泉、かくし水などは、名水としても知られています。



火砕流堆積物によって形成された広大でなだらかな台地です。放牧が営まれ、のどかな風景が広がっており、春には野焼きも行われます。



写真提供：菊池市

外輪山の北西部に位置し、大小様々な瀬や滝が連続する美しい渓谷です。清流の水温は夏でも低く、涼やかな空間は多くの観光客を魅了しています。



目の前に「阿蘇の涅槃像」と呼ばれる阿蘇五岳、周囲には広大な草原、眼下には阿蘇谷を見渡すことができる開放的な展望地です。駐車場が整備されており、そこから展望地は徒歩約10分です。



阿蘇火山において最も新しい時期(約3,000年前)に形成され、お椀を伏せたようなきれいな円錐形状をしています。高さは約80m、山頂には火口跡があります。(植生保護のため立入禁止)



見学については表面の「阿蘇火山規制情報」にてご確認ください

一般の観光客が火口を覗きこむことができる世界でも珍しい活火山です。徒歩のほかロープウェイ、車でも火口付近まで行くことができます。



直径約1kmの火口の中に約400mの新たな火口が生じた二重の火口地形です。2つの池と草原が広がり、のどかな風景でゆったりとした時間を過ごすことができます。



熊本市内を流れる一級河川「白川」の水源の1つです。南阿蘇村湧水群を代表する水源で、毎分60tの水が湧き出しています。環境省選定の名水百選にも選ばれています。

Information 施設案内



阿蘇草原
保全活動センター
〒869-2307
熊本県阿蘇市小里656
[TEL] 0967-32-0100
[URL] http://aso-sougencenter.jp



阿蘇火山博物館
〒869-2232
熊本県阿蘇市赤水1930-1
[TEL] 0967-34-2111
[URL] http://www.asomuse.jp



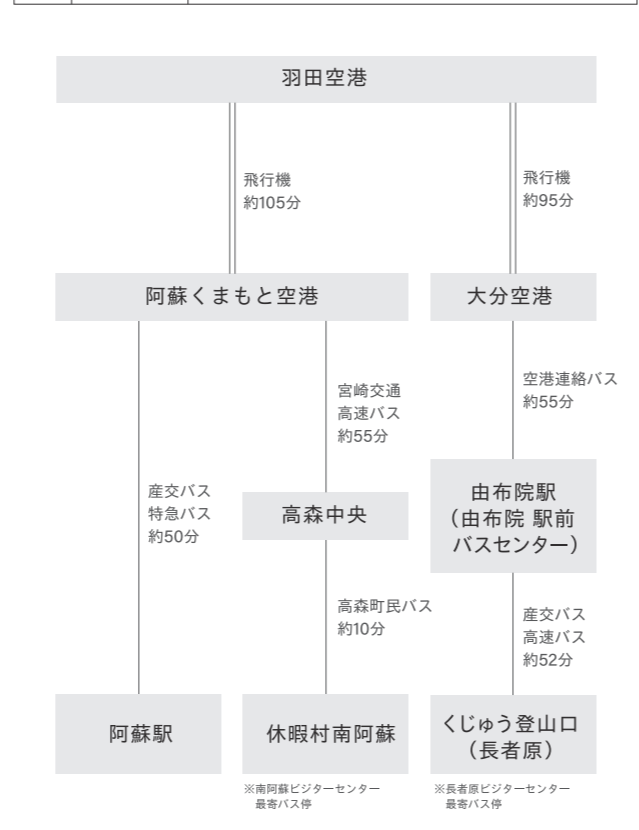
南阿蘇ビジターセンター
〒869-1602
熊本県阿蘇郡高森町大字高森3219
[TEL] 0967-62-0911
[URL] http://www.minamiaso-vc.go.jp/



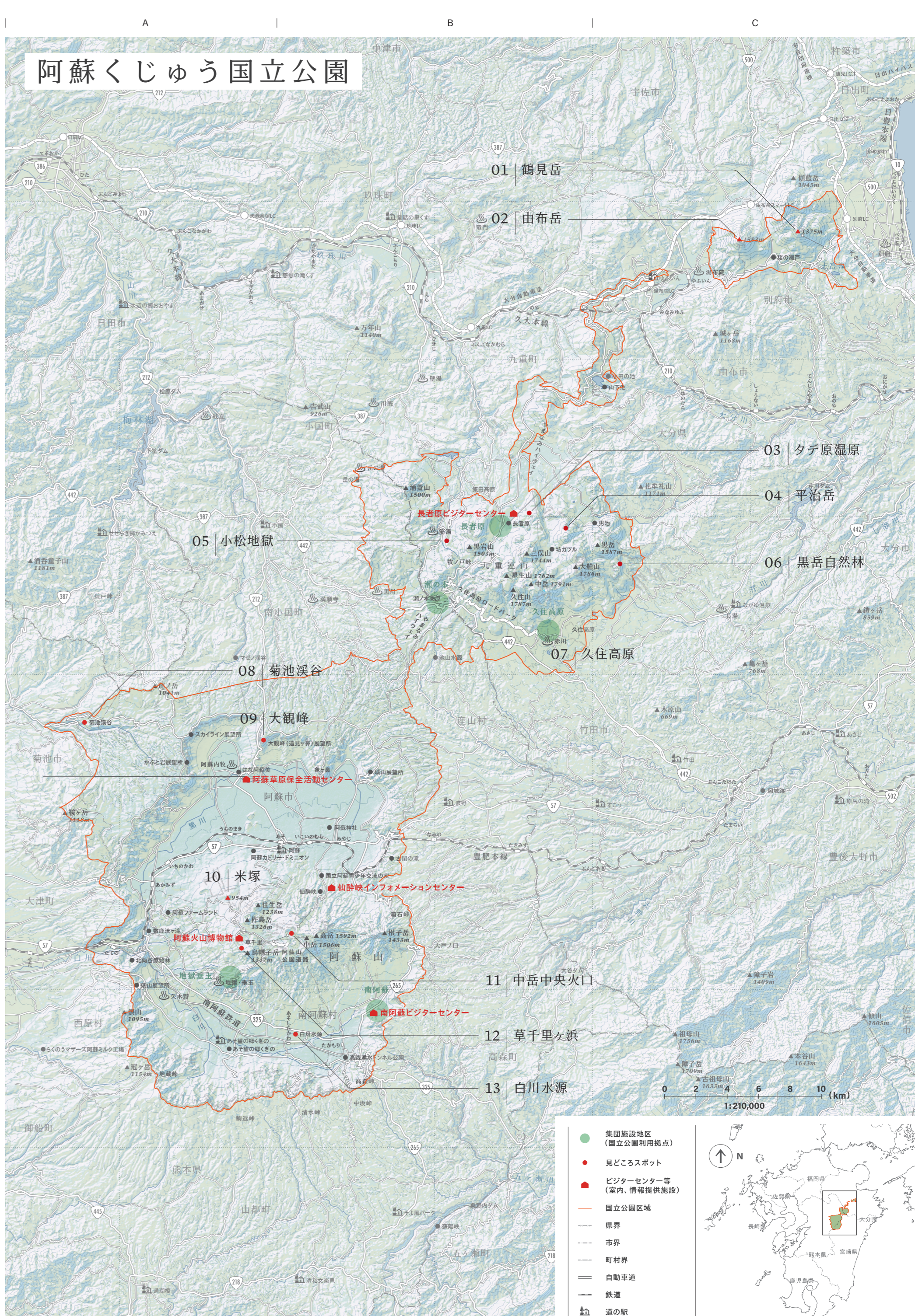
長者原ビジターセンター
〒879-4911
大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
[TEL] 0973-79-2154
[URL] http://kyushu.env.go.jp/nature/tyojyabaru/

※開館時間などについて詳しくは各施設にお問い合わせください。

Access 交通アクセス



※アクセスルートは一例です。各区間の所要時間は目安です。詳しくは各交通機関の窓口・ホームページなどで確認ください。



※詳細な区域確認等に当たっては、担当の環境省自然保護官事務所等にお問い合わせください。